※令和４年度以降入学生用

学校番号	2102

令和５年度　家庭科

教科	家庭	科目	服飾手芸	単位数	２単位	年次	全年次（家庭基礎または家庭総合ｂを履修後）
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・編み物、手縫い、ミシン縫いの基礎的な内容から身につけていきます。
・ボタン付けや簡単な身につけるものの製作ができるようになることをめざします。
・予習や復習は必要ありませんが、毎時間作業をするので、丁寧に細かい作業をすることが得意な人が向いています。欠席が多いと作品が完成せず、単位を取ることが難しくなります。

２　学習の到達目標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して，創造的な手芸品の製作と服飾への活用を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することをめざす。
(1)　手芸の種類と特徴及び変遷，各種手芸の技法などについて体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。
(2)　手芸の美的価値及び製作工程に関する課題を発見し，手芸品の製作と服飾への活用を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
(3)　手芸品の製作を目指して自ら学び，創造的な製作と服飾への活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	手芸の種類と特徴及び変遷，各種手芸の技法などについて体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けている。	手芸の美的価値及び製作工程に関する課題を発見し，手芸品の製作と服飾への活用を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。	手芸品の製作を目指して自ら学び，創造的な製作と服飾への活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけ、実践しようとしている。

※令和４年度以降入学生用

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
10.～11.月	手芸の種類と特徴	・基礎縫いの練習 返し縫い、玉止め・玉結び ボタン付け ・身につけるものの製作① 編み物の技術を身につける ニットキャップ	a：手芸の種類と特徴についての基本的な知識を身につけるとともに、基礎縫いと簡単な編み物についての技術（返し縫、玉どめ、玉結び、目の作り方と長編みの仕方）を身につけた。 b：自分で考えて色の組み合わせや飾りつけなどを工夫できる。また全体を見通し進度を管理できる。 c：手芸の種類と特徴について興味を持ち、作品制作にも積極的に取り組むことができる。	作品 実技テスト 完成レポート	作品 完成レポート	ワークシート 振り返り
12.月	手芸の変遷	・身につけるものの製作② ミシン縫いの技術を身につける エコバック	a：手芸の変遷についての基礎的な知識、ミシンの各部の名称や扱い方についての知識を身につけるとともに、ミシン縫いの基礎的な技術を身につけた。 b：自分で考えながら作品を制作し、どうすればうまく縫えるか工夫しながら作業ができる。 c：手芸の変遷について興味を持ち、作品制作にも積極的に取り組むことができる。	作品 実技テスト 完成レポート	作品 完成レポート	ワークシート 振り返り

※令和４年度以降入学生用

1月～2月	服飾材料としての各種手芸の技法	・身につけるものの製作③ ショートパンツ 平面の布を立体的な体に合わせる型紙の工夫を知る	a:服飾材料としての各種手芸の技法について知識を身につける。平面の布を立体的な体に合わせる型紙の工夫について理解した。また、型紙の使い方、布の裁断、カーブの縫い方等を身につけることができた。 b:今まで学習した内容から、作品のアレンジ方法を考え、実際に仕上げることができる。 c:服飾材料としての各種手芸の技法について興味を持ち、作品制作にも積極的に取り組むことができる。	作品 実技テスト 完成レポート	作品 完成レポート	ワークシート 振り返り

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度